

始まりは、“生きる喜びを取り戻すため”の リハビリテーション。

パラリンピックのはじまり

第二次世界大戦中、イギリスのストーク・マンデビル病院の医師ルードウィヒ・グットマン博士は、「身体障害者には肉体面だけでなく、生きる意欲を取り戻すための精神面のリハビリテーションも必要だ」と考えました。そこで取り入れたのがスポーツです。1948年7月29日、ロンドンオリンピックと同じ日に、車いす利用者によるアーチェリー大会「ストーク・マンデビル競技会」を開催。1960年には、「第9回国際ストーク・マンデビル大会」がローマで開催され、この大会が「第1回パラリンピック」とされています。

「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」。グットマン博士のこの言葉はパラリンピックの理念となり、現在もパラアスリートたちを励まし続けています。



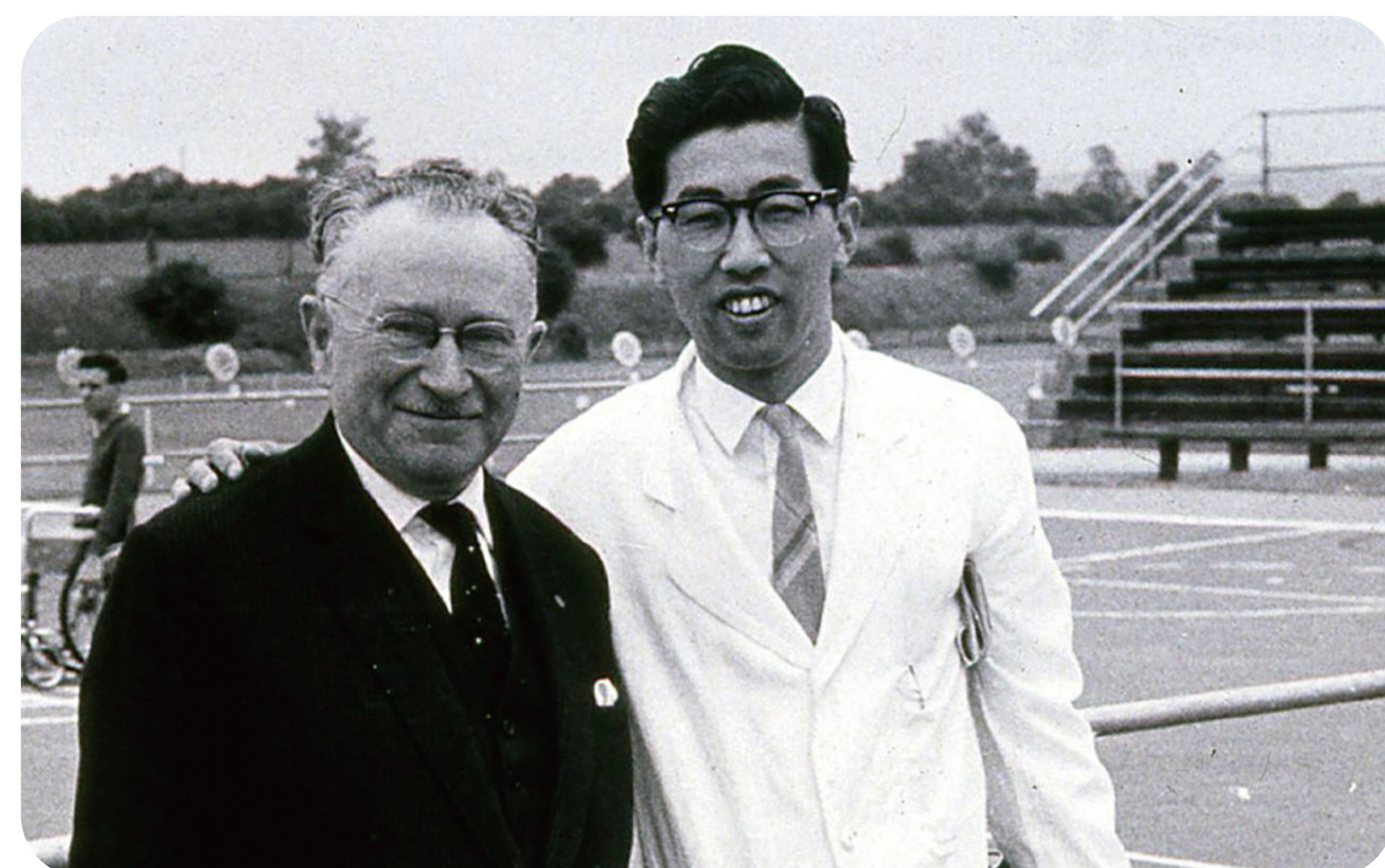
国際ストーク・マンデビル大会入場門前

写真提供：社会福祉法人 太陽の家

オリンピック・パラリンピック 現在の原型は1964年の東京大会

1964年、東京オリンピックとともに開催された第2回パラリンピックも、パラスポーツの歴史において重要な意味を持つ大会です。

当時グットマン博士に師事していた医師の中村裕博士、社会福祉事業振興会会長の葛西嘉資氏は、「すべての身体障害者が参加できる大会に」と考えました。結果、脊髄損傷者を対象にした国際ストーク・マンデビル大会(第1部)とあわせて、国内の視覚・聴覚障害者など幅広い障害者を対象とした大会(第2部)が開催されました。その後、1976年のトロント大会から、パラリンピック自体に車いす以外の障害者も参加可能となり、ルールや道具も整備されていきました。



グットマン博士(向かって左)と中村博士(右)

パラリンピックのあゆみ

1948年

パラリンピックの原点とされる「ストーク・マンデビル競技会」がイギリスで開催される。当時は車いすの障害者のみの参加で、種目もアーチェリーだけでした。

1960年

「第9回国際ストーク・マンデビル大会」(後の第1回パラリンピック)がローマで開かれる。23ヵ国から400名の選手が参加。健常者の大会との同時開催は、この大会が初めてです。

1964年

東京パラリンピック開催。大会は2部構成で、国内外の脊髄損傷者を対象とした第1部と国内の視覚・聴覚障害者を含む幅広い障害者を対象とした第2部がありました。

1976年

第1回冬季パラリンピック「エンシェルトヴィーク大会」を開催。トロントパラリンピック開催。初めて車いす利用者以外も参加。

1985年

パラリンピックが正式名称になる。
※「パラリンピック」は、かつての東京大会の際に日本で作られた名称。当時は、「Paraplegia/両下肢が動かせない状態」と「Olympic」を組み合わせたものでした。1985年に正式名称となり、下半身が動かせない人以外も参加可能となったことから、「パラ」の意味はギリシア語の「Para/沿う、並行」に変化。現在のパラスポーツという言葉が生まれました。

1989年

国際パラリンピック委員会(IPC)設立。

1996年

国内初の冬季パラリンピック「長野パラリンピック」開催。

2000年

シドニーパラリンピック後、「オリンピック開催国はオリンピック終了後にパラリンピックを開催する」という基本事項が正式に義務化する。

2013年

東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されることが決定。

2016年

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック開催。

2020年

東京オリンピック・パラリンピック開催予定。



1964年東京パラリンピック 選手宣誓



中村博士と日本人選手



1964年東京パラリンピックポスター